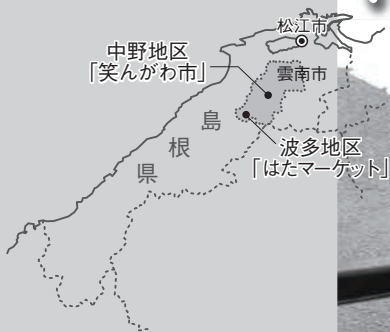
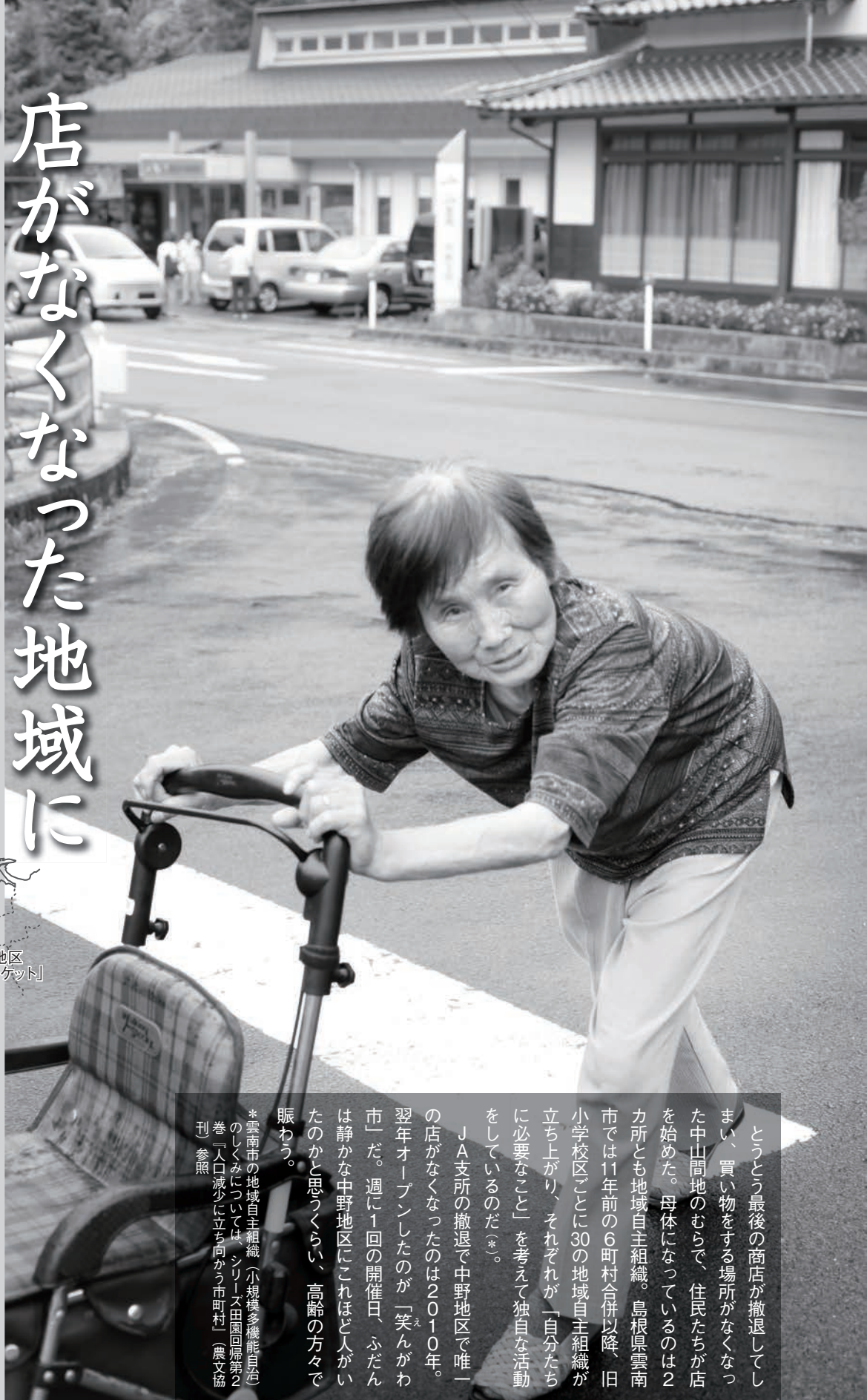


島根県雲南市・地域自主組織の店
写真 高木あつ子 文 編集部

店がなくなつた地域に できた2つの店



とうとう最後の商店が撤退してしまい、買い物をする場所がなくなった中山間地のむらで、住民たちが店を始めた。母体になっているのは2カ所とも地域自主組織。島根県雲南市では11年前の6町村合併以降、旧小学校区ごとに30の地域自主組織が立ち上がり、それぞれが「自分たちに必要なこと」を考えて独自の活動をしているのだ*。

JA支所の撤退で中野地区で唯一の店がなくなつたのは2010年。翌年オープンしたのが「笑んがわ市」だ。週に1回の開催日、ふだんは静かな中野地区にこれほど人がいたのかと思うくらい、高齢の方々が賑わう。

*雲南市の地域自主組織(小規模多機能自治体のしくみ)については、シリーズ田園回帰第2巻「人口減少に立ち向かう市町村」農文協刊 参照



89歳の清水照子さんも、笑んがわ市の常連。喫茶コーナーで人と話すのが大好きで毎週来る。、産直市のほうにも野菜や漬物を出荷して、月1万円くらいは稼ぐ。新しい漬物レシピ情報を入手すると、次々挑戦する